

会長の突撃インタビューPart2・活躍する同窓会員-

頑張れ!! 越智遼平さん

「学園通信第 661 号 11 月号（令和 6 年 11 月 25 日発行）」に、越智遼平さん（24 才）の記事が記載されていた。彼は、平成 30（2018）年度に岐阜東高等学校を卒業し、東京大学文科一類に進んだ。さらに 3 年で早期卒業ができる制度を使って、同大学法科大学院に進学して法律を学び、大学院時代に早くも司法試験に合格した。この事が令和 6（2024）年 9 月 13 日付けの岐阜新聞に掲載された。

岐阜新聞が報じた内容は、越智さんが令和 6（2024）年 3 月に法科大学院を卒業した折に、岐阜市打越に在る「税理士法人 TACT 高井法博会計事務所（以後 TACT と略す）」を訪ね、久し振りに帰郷して近況を報告した時の記事だった。岐阜東高校を卒業して 6 年になる越智さんは、TACT の奨学金のおかげで勉強に打ち込む環境が整い、勉学に励む事が出来、同じ志の高い仲間と出会ったのが「すごく刺激になった」と当時を振り返った。

現在は、福岡での司法修習を経て、東京の企業法務を専門とする法律事務所で勤務している。将来有望な同窓会員のひとりとして彼を紹介し、また岐阜の地元にある TACT の「**将来の日本を支える若者への奨学制度**」について同窓会員にも広く知って貰いたいと思い取材した。

1. 越智遼平さんの紹介

1-1 越智遼平さんの高校生時代

岐阜東高校の歴史を知る上で、参考になる冊子がある。学校法人富田学園が発行する「学園通信」である。その第 628 号 5 月号（令和元年 5 月 24 日発行）の 15 ページに越智さんが寄稿した一文が収載されている。『合格体験記「岐阜東中高一貫で学ぶべきこと」東京大文科一類・越智遼平』とある。ここで、彼が書き記した寄稿文を簡単に紹介する。

1-2 寄稿文の概要

彼は、「大学受験において**質の高い努力**こそ報われる」と、高校卒業の合格体験記に記述している。そして「**質の高い努力**」を実現するためには、各個人には「**能力**」が必要で、高校卒業までに身につけておかなければならない「**3つの力**」が有ると述べている。

一つ目は、「**分析力**」。自分の実力と敵の力（ここでは入試や定期テストの難易度を指している）を正しく分析できる能力が必須不可欠だと言っている。成績を向上させるには、今の自分の実力を分析し、また自己を反省して「**今、出来る事と出来ない事**」を目標に設定して学習計画を立てる。しかし、多く個人の場合は決意とは裏腹に「三日坊主」になるのが普通であり、その為には、二つ目に「**自己管理能力**」が必要だと言っている。簡単に言ったら「**自制心**」だとも言っている。遊びたい年頃にスマホや漫画と誘惑が漂う。無理せず今日の内にやれる分の勉強をするスタイルを身に付け、予習復習で学習を繰り返し習慣化する。これが



自己管理能力の実態だと論じる。三つ目は「楽しむ力」だ。24時間の3分の1を過ごす学校の活動で、ほとんどの時間を占める授業や学習を楽しまないことは損ではないかと問いかけている。

特に、高校時代の基礎授業は一般教養であって、農業高校や工業高校の様に特殊な技能や技術を身に着ける実業高校では無いので人間としての能力を向上させることが求められ、「3つの力」を身に着ける時期だと言う、彼の主張は高校生離れをしているのかも知れない。少し咀嚼して伝えと、高校時代の授業で受けた如何なる勉強も決して無駄な時間では無く、将来必要な力を蓄える時間だと明察している点である。将来何の役に立つかわからない「微分積分」、「万葉集の歌」、「日常使わない英単語」などなど、無理やり詰め込んでも脳みそはなかなか追いついて来ない。しかし、全力で授業や学習に取り組んで見れば「理解が出来、達成感が生まれる」と経験談を語る。実際、自分の身の回りに起こる様々な出来事に、あれこれ理由を付けて逃げるのは簡単だが愉快ではない。誰しも考えるより、テレビやスマホの情報を眺めていた方が楽なのである。社会に出て様々な経験をする時、高校時代に身に着けた「学習する」という基礎力は案外役に立っているそう。その時には理解出来なくて苦しんだが、「なるほど、そうだったか」と気付かされる事も多い。

越智さんが高校生時代に受験勉強を「人間力」を向上させる教育だと見抜いたのは大変面白い。越智さんの「3つの能力」に感銘し、記事にしたのだが、今の私達にも必要な「力」なのでは無いか。

2. 『TACT 奨学金』について

2-1 「TACT 奨学会」とは。

TACT 奨学会は、創業 40 年以上の歴史を持つ岐阜市折立にある地域に密着した企業で、特に、地元の中小企業を中心に幅広い業務を提供しており、税務・会計業務から経営助言、公会計、相続税対策など多岐にわたるサポートを行っている。

2-2 創設者（高井法博*氏）の紹介

高井法博氏（78 才）は、岐阜市にある TACT 高井法博会計事務所の創業者であり、昭和 53（1978）年に会計事務所を開業し現在は会長を務めている。彼は中小企業の経営を支援

するために様々なサービスを提供し、8名の税理士、4名の公認会計士、3名の社会保険労務士等をはじめ各種有資格者を多数揃え総数 103 名のスタッフを擁し「会社の発展のためビジネスサポート業、情報発信基地、社外重役として経営に役立つサービスの提供をしている。高井会長は、経営者としての経験を活かして多くの企業を支援し続け、彼の人生と経営の哲学は、多くの人々にインスピレーションを与えています。

*社誌「一期一会」の記事から。

(シルバーヘアの穏やかな表情が特徴の方です。取材に應對して頂いたのは、御令嬢の高井真紀さんです。)

2-3 創設者の理念

戦前に高井会長は由緒ある寺に生まれ、比較的裕福であった。しかし、戦後の会長がまだ若い頃に両親は戦後の農地解放に上手く対処できず、彼の父親は体調を崩し病気になった。大黒柱が傾き、極貧の生活が余儀なくされ、遂には生活保護を受けた。会長は学費を工面するために小学校低学年から新聞配達をして家計を助けた。さらに中学校の時、父親が脳溢血により半身不随となり高校進学をも断念した。そんな折、後藤静一**氏と巡り合い後藤孵卵場(株)に就職した。また、後藤社長に見込まれて奨学金を受け、県立岐阜商業高等学校に通うことができました。その後、後藤孵卵場で大抜擢を受け、次々と試練と大きな仕事を与えられ、多くの困難がありましたが、それを乗り越えて成功を収めました。彼が昭和 52(1977)年に退社して、税理士の資格だけを頼りに彼は妻と共に岐阜市山県三輪の自宅で会計事務所をスタートさせた。

彼の経営理念の一つ目は、「自利とは利他をいう」という考えで、今は亡き後藤静一氏の御恩を後世に引き継ぐために、これまでに多くの方々から受けた御恩をお返しする。二つ目は、「若い人を育てる」という、家庭の事情で就学が困難な学生を生活面から援助しようと、「TACT 奨学会」を設立し貧しい学生を支援する活動を行う。三つ目は、「品行方正・学力優秀な人材への支援」で誠実に一生懸命努力している学生たちが進学を断念することなく世に羽ばたかせることで有益な人材の育成・社会の発展に貢献する。

TACT 奨学金制度はこのような意図から、これまで教えていただいた生き方・思想・利他に徹する事が「世のため人のために役立つ」ことを念願に設立・発足させられている。

**後藤孵卵場(株)(日本で唯一の純国産鶏「さくら」と「もみじ」の育種を行っている企業。創業者が昭和 20 年(1945 年)の岐阜空襲の際、焼夷弾による被害を受けながらも、原種鶏を抱きかかえながら食料を分け与え、種を守り続けたという話があります。このエピソードは、後藤孵卵場の創業精神を象徴しています。)

2-4 TACT 奨学金制度の概要

① 目的

この TACT 奨学会の目的は、『優秀な学徒にして、経済的理由により就学困難なものに足

して修学を助け、もって国家の有用な人材に育成する事を目的とすると共に、その目的を達成するため』としている。奨学金支給対象は大学進学を目指す人（全日制高校3年生）と全国4年制の国公立大学および私学入学者が対象だ。

② 応募資格

i) 大学進学を目指す全日制高校3年生、ii)岐阜県出身者または県内に在住している事、iii)人物、学力に優れている事、iv)経済的理由により修学困難者である事、など限定されている。しかし、この奨学金は返済の義務はなく、将来の就職等についても何等の義務もない。

③ 奨学金の支給額。

奨学金は、600,000円/年（月額50,000円X12ヵ月）で、原則4年間として返還の必要はない。そして他の奨学金と重ねて受給することが出来る。

⑤ 選考方法及び通知、採用人数など

TACT奨学会の選考委員会において厳正に選考され、常任理事会で奨学生を決定する。翌年2月下旬を目処に申請者に対し、採否を文書で通知される。2024年度の奨学生は4名程度としている。WEB上でオンライン授与式が行なわれる。

3. 現在の越智遼平さん

3-1 越智さんの抱負

弁護士となった越智さんの抱負は、奨学金を頂いて勉強してきた5年間で社会にどう生かしていくか考えている。何かの分野で、日本で一番といわれる弁護士になりたい」と語っていた。高井さんは「彼の活躍を聞くと奨学金を通して社会に貢献して始めて良かったと思う」と笑顔で感想を述べたと岐阜新聞は報じている。

3-2 特技・趣味

越智さんの趣味はサッカーである。岐阜東高校ではサッカー部の主将を務めていた。サッカー部時代には、同校初の県2部リーグを戦い、「やりぬく精神」で日々厳しい練習を行っていたそうだ。現在は趣味の一つとして緩やかにサッカーを続けているとのことだ。

昨年は弁護士、検察官、裁判官で構成される法曹サッカー全国大会にも修習地の福岡代表として出場した。現在は、弁護士のみが参加を許される世界大会（弁護士サッカーワールドカップ）に出場し、日本の弁護士代表として世界の舞台でサッカーをすることが密かな夢だと語ってくれた。

越智さんは大学時代、地方の高校生に向けて東京大学のキャンパスを案内する活動にも参加しており、現在も岐阜東高校の後輩のために何かできることはないか!!、と心熱く語る。その若さと情熱に、同窓生一同で心よりエールを送りたい。